

研究種目：基盤研究（A）  
研究期間：2007～2010  
課題番号：19203018  
研究課題名（和文）  
近代移行期における地域情報とその蓄積過程に関する比較制度研究  
研究課題名（英文）

研究代表者  
村山 聡 (MURAYAMA SATOSHI)  
香川大学・教育学部・教授  
研究者番号：60210069

研究代表者の専門分野：  
科研費の分科・細目：  
キーワード：

### 1. 研究計画の概要

近世文書の膨大な史料群はどのような全体系を有し、何が継続的に保持され、何が変わっていったのか。まず、(1) 選択した特定地域の史料体系の全貌を提示することを目標にする。また、特定の庄屋文書などに対象範囲を限定しつつ、さらにいくつかの地域を比較検討することによって、(2) 近代移行期における地域情報の多様性と同質性の構造を明らかにし、(3) 近代化の準備段階において不可欠であった地域情報の蓄積過程つまり日本独自の創発的近代を明確にすることを目標にする。またそのような近世期に形成された地域情報の基層構造が近現代経済史にどのような影響を与えてきたかについても可能な限り明らかにしたい。

### 2. 研究の進捗状況

(1) 庄屋日記と史料存在との関連に関する分析方法を発展させ、研究成果を内外で報告し、著作物の刊行などを行った。(2) 住民把握の論理に関する史料体系の分析に加えて、財産把握の論理との関連で一昨年に開始した水環境のインフラストラクチャーの分析からの史料分析ならびに討議を継続し、その研究成果の一部を公開した。(3) また地域把握の論理あるいは近世文書の論理に関する資料収集・整理を開始した。

具体的には、第1に、これまでの研究成果を公表すべく、社会経済史学会全国大会において、当該研究プロジェクトとして、「『プロト近代行政』における領民把握—近世的『発展』に関する比較史的アプローチ—」と

題してパネルセッションを企画した。

第2に、近世日本の水環境に関する歴史的研究の成果を踏まえて、ライン川等、現在の国際河川における諸問題との関連について、特に上部ライン地方の史料学的データの整理を進めた。

第3に、上記とも関連して、昨年11月に、特に水環境の国際比較に関する国際研究会を企画し、チェコ共和国南ボヘミア大学において、当該研究プロジェクトの研究成果を発表した。また、近世南ボヘミアの史料学的特徴についての共同研究をさらに進めた。

第4に、地域把握の論理に関する絵図あるいは地図に関する資料整理をすすめ、比較研究の対象として、仏独国境線に位置する上部ライン地方の地域情報に関する資料収集・整理をさらに進めた。昨年度の研究成果に基づいて、住民把握の論理、財産把握の論理、地域把握の論理、さらには近世文書の論理の相互関係のダイナミズムが、例えば水環境一般ひいては災害時あるいは洪水対策というような特定の歴史事象に注目することにより、より鮮明に論点を明らかにできることが確認された。

さらに、今後いろいろな機会に研究成果を公表することは地域情報研究の進展に大いに寄与できると考える。

### 3. 現在までの達成度

② おおむね順調に進展している。

すでに調査研究が進み文書の整理が済んでいるものについては、当初計画以上に研究成果を公開することができている。ただし、庄屋文書等において、文書目録の整理すらできていない文書群にはついては、その整理そ

のもので多くの時間を要し、体系的な分析によりやく着手できた段階であり、まだ研究成果を発表するに至っていないものもある。しかし、文書群の整理そのものもこの研究プロジェクトの重要な要素であり、当初計画通りにおおむね順調に進展していると判断する。

#### 4. 今後の研究の推進方策

最終年度についてもこれまでと同様に、(1) 庄屋日記と史料存在との関連に関する分析方法をさらに発展させ、研究成果を内外で報告し、著作物の刊行などを行う。(2) また、住民把握の論理に関する史料体系の分析、財産把握の論理との関連で開始してきた水環境のインフラストラクチャーの分析からの史料分析ならびに討議を継続し、その研究成果を公開する。(3) また最終年度の研究課題としている近世文書の論理全般に関する資料収集・整理を終える。

具体的には、第1に、これまでの研究成果を公表すべく、ベルギーのガンで開催される第8回ヨーロッパ社会科学歴史学会において、セッションを組織し、報告を行う。

第2に、日本人口学会大会において、当該研究の成果を関係するパネルセッションにおいて報告する。

第3に、オックスフォード・名古屋大学環境史セミナーにおいて当該研究の成果に関する報告を行う。

第4に、毎年継続して行って来た近世地域情報研究会の最終ワークショップを開催し、これまでの研究の総括を行う。

第5に、昨年11月に、特に水環境の国際比較に関する国際研究集会を企画し、チェコ共和国南ボヘミア大学において近世南ボヘミアの史料学的特徴についての共同研究をさらに進めたが、本年度も継続し、さらなる国際研究集会を企画する。

最後に、地域把握の論理に関する絵図あるいは地図に関する資料、比較研究の対象としての仏独国境線に位置する上部ライン地方の地域情報に関する資料、住民把握の論理、財産把握の論理、地域把握の論理、さらには近世文書の論理の相互関係のダイナミズムに関する収集資料の整理を行い、さらに、国内、国外を問わず、補足的な資料収集を継続すると共に、著書の出版計画等を含めて、いろいろな機会を通して研究成果を公表していく。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計11件)

① MURAYAMA, Satoshi, Determinants of Inheritance Patterns in an Early Modern Japanese Village, Yukinobu. Historicka demografie, 査読

有, Vol. 31, 2007, pp. 91-116.

[学会発表] (計25件)

① MURAYAMA, Satoshi & HIGASHI, Noboru, Smallpox and Quarantine Policy in 18th and 19th Century Amakusa Islands, Kyusyu, Japan. A Geographical Analysis. The 14th International Conference of Historical Geographers, 26 August 2009, Kyoto University.

[図書] (計6件)

① MURAYAMA, Satoshi, Smallpox and Population Change in 18th and 19th Century Amakusa Islands, Kyushu, Japan. Satomi Kurosu, Tommy Bengtsson and Cameron Campbell (ed.), Demographic Responses to Economic and Environmental Crises, Reitaku University, 2010, pp.239-251.

② 村山 聡, 「中近世ドイツ地方史からみた相続慣習」國方敬司・永野由起子・長谷部弘編著、刀水書房、『家の存続戦略と婚姻—日本・アジア・ヨーロッパ』、2009年、161-178頁。

③ 村山 聡, 「近世村落史料の体系性と比較分析の可能性」日本村落研究学会編、農山漁村文化協会、『近世村落社会の共同性を再考する—日本・西欧・アジアにおける村落社会の源を求めて』、2009年、73-111頁。

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]